

日常術

三好礼子〔バイク〕術 走れ、いい女



著者について

三好礼子（みよし・れいこ）

一九五七年東京生まれ。七五年自動二輪免許（含大型）取得。翌七六年、朝日新聞の原稿輸送会社に勤める。七ヵ月後退職し、三万キロの日本一周ツーリングに出発。現在、ライター、ライター、TVレポーター、モデル、DJ、雑誌編集者、バイク店経営、主婦として活躍中。

バイクショップ「哲輪（てつりん）」

東京都渋谷区本町三ノ五三ノ一 北嶋ハウス
一〇一（電話三七六―八八六一）

三好礼子（バイク）術・走れ、いい女

一九八六年十一月二五月初版
一九八七年十一月一〇日四刷

著者 三好礼子

発行者 株式会社晶文社

東京都千代田区外神田二―一―二二

電話東京二五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）

振替東京六一六二二七九九

中央精版印刷・美行製本

© 1986 Reiko MIYOSHI

Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合には予め小社あて許諾を求めてください。
〈検印廃止〉 落丁・乱丁本はお取替えいたします。

日常術

三好礼子〔バイク〕術 走れ、いい女



円 ISBN4-7949-2805-X C0375 ¥1200E

シリーズ『日常術』⑤

三好礼子『バイク』術
走れ、いい女



晶文社



レーコこと、
三好礼子

この本の著者ですヨ。最後の
ページまで、ヨロシク。

スーさんこと、
鈴木義輝

女よりバイク、というのが
口癖の好青年です。バイク
より女、と言いはじめるの
をタノシミにしてんだけど
……。チーフ・メカです。

アキちゃんこと、
増子明彦

テッチちゃんの弟です。カド
ヤで修業して、今はアド・
カンパニーの名で哲輪の革
製品いっさいを、担当して
います。

Kawasaki



ドドさんこと、
高田秀人

ントはトドさんだけど、
ぜかなマって、ドドさん。
ちろん、北海道出身。バ
クの配送、登録で大活躍
毎日です。

ミクリヤくんこと、
御厨隆夫

メカ担当。最近、結婚しま
した。入籍したら、バイク
をプレゼントするといっ
たら、すぐそうしました。
よし！ プラモをやろう。

ハンちゃんこと、
今野晴美

名実ともに、哲輪の番頭さ
ん。秋田出身のド根性娘。
バイクも四輪も大型免許と
いうのが、スゴイ。

テツちゃんこと
増子哲一

こうしてならぶと、やっ
り、いちばんイイ男だ。
ん。——なんか、文句あ
りますか。

目次

バイクショップでお店番——はじめに 12

1 わたしがバイクに乗りはじめたわけ 22

2 モトクロスにぞっこん 32

3 猫とペントハウス——わたしの仕事と生活 39

4 ミスバイクに拍手！ 47

5 わたしを愛してくれたバイクたち 57

6 日本一周で会った、こんな人、あんな人 72

7 50ccでも楽しめちゃう——バイク・ワールド入門 83

8 ツーリングしませう 88

9 愉快なバイク仲間たち 97

10 鈴鹿8時間耐久レースたいへん記 106

森の中のバイク屋さん——おわりに 115

ブックデザイン 平野甲賀

写真撮影

滝沢真二

盛長幸夫

大谷 勲

写真資料提供 ミスター・バイク





バイクショップでお店番——はじめに

東京の環状6号線（山手通り）沿いに、わたしたちのバイクショップ「哲輪」^{てりりん}があります。

お店のまえに立つと、道路の向う側の建物のアタマ越しに、新宿の超高層ビル群がニョキニョキと見えます。

「わたしたちの」といったのは、このお店は、わたしのダシナ（がいるんです、これが）の「テッチちゃん」こと増子哲一と、わたしとでやっているからです。

11階建ての白く細長い、マシシヨンの道路に面した一階が、お店。道路からすこし引っこんでいて、そのスペースに、お客さんから預かったバイクや中古車をいっぱい置いてあります。すこしオイルの匂いが漂っています。

ここが、いまのところ、わたしがいちばん落ちつける場所、かな。

81年10月、結婚しました。

19歳のときに、バイクでの日本一周の旅から帰ってきたあとずっと、中目黒のビルの屋上にある、プレファブ造り、10畳ひと間のペントハウスで暮らしていました。そこに、テッチちゃんがかかりこんできたのです。

わたしも友だちがたくさんいるし、テッチちゃんも友だちづきあいがいい。ペントハウスは、たちまち、バイク仲間の溜まり場になってしまった。いちおう、新婚だけど、二

人だけでいるなんてこと、ない。朝起きると、家の中で友だちの友だち（つまり知らない人）が寝ていたりする。

それはそれで、けっこう楽しいことなんだけれども、365日中360日その状態じゃあ、ちょっとツライな、と思うときもあったりして。で、お店が持てれば、そっちへみんな集ってもらえるし、わたしたちのプライバシーも確保されるね、って、テッチちゃんと話していたんです。

テッチちゃんとは、おたがいプレス（新聞社の原稿をバイクで運ぶ仕事です）をしていたときに、知りあった。（彼が「タバコ、吸わない？」といって、ナンパしてきたのがキッカケ）。テッチちゃんは、結婚してからもずっと、プレスをしていたけれど、どこかにショップやりたいたいという気持ちがあったみたいです。

で、すこし真剣になって、プレスをやめ、小平にある「ブルークラス」という、キャンピング・ショップのバイク・コーナーで働くことになった。店主見習いです。

いっぽう、お店探しもはじめた。休みの日は不動産屋めぐり、仕事帰りに下調べ、そして友だちに心あたりを聞いてもらったりしていた。素敵なこのお店が見つかったのは「疲れたねー。もう少しゆっくり探そうか」と言いはじめたところ。

「哲輪」のまえも、やはり、ここはバイクショップでした。ホット・カンパニーという店名で、おもに、ウェアやブーツやヘルメットなどの用品をあつかっていた。小林敬子さんという、KAWASAKI・Z650に乗っていた元コピーライターの女性がオーナーでしたが、健康上の理由で続けられなくなった。それで、そのショップをそのまま、ゆずってもらえることになりました。

83年11月6日オープンです。結婚して2年目でした。

バイクそのものの販売と修理とがメイン。

お店の名前も、はじめは、ホット・カンパニーをひきついであいたけど、一段落してから、「哲輪」に改名しました。「哲輪」の「哲」はもちろん、ダンナの「哲一」からとりました。そういう名前の店を持つのが、テッチちゃんの夢だったから。

午前10時、開店です。

テッチちゃんやアキちゃん、メカのスーさん、ミクリヤくん、番頭のハンちゃん、そしてアルバイトのドドくんたちが手早く、店を開ける準備をします。注文や納車の確認をしたり、修理の順番を打ち合わせたり。

わたしも、お店の掃除をしたり、用品の整理をしたり、



